

芳ヶ平周辺地域におけるニホンジカ対策（2）

予算区分：県 単	研究期間：令和5～7年度	担 当：企画・自然環境係 山 田 勝 也
----------	--------------	----------------------

I はじめに

近年、ニホンジカ（以下、シカ）による生態系への影響が日本各地で報告されている。平成30年度から令和4年度にかけて、芳ヶ平湿地群（以下、芳ヶ平）におけるシカの利用状況を調査した結果、大平湿原においてミズバショウの食害が顕在化し、直近では開花株が全く見られない状況になっていることが明らかとなった。今年度は地元と連携して試験的に獣害防止ネット（以下、ネット柵）を設置し、経過観察を開始した。

また、芳ヶ平同様、上信越高原国立公園に所在する野反湖においても、植生被害が確認されたことから、大平湿原及び野反湖において植生調査を実施し、シカによる被害の現状を記録した。

II 方 法

1 ネット柵の試験的設置

大平湿原におけるミズバショウのシカによる被害状況について、芳ヶ平の賢明な利用を目指す「芳ヶ平湿地群ラムサール条約連絡協議会」（会長：中之条町長）へ令和5年10月10日に報告した結果、大平湿原に試験的にネット柵を設置する運びとなった。令和6年5月23日にステンレス入り防鹿柵（図-1、ソリッドナイト、(株)ヤマイチネット）総延長約40mを方形に設置した。設置にあたっては、中之条町をはじめ、環境省、林野庁、地元ガイドら総勢22名と連携して実施した。



図-1 試験的に設置したネット柵

2 植生調査

各調査地に生育する維管束植物を目視と写真撮影を主に踏査し、シカによる食害の有無を記録した。

大平湿原は、片野 光一 氏、中澤 和則 氏、吉井 広始 氏とともに調査同行し、6月と9月に調査した。野反湖は、群馬県自然保護指導員兼県内希少野生動植物種保護監視員の中村 一雄 氏とともに5～11月にかけて概ね月1回調査を行った。

III 結果及び考察

1 ネット柵の試験設置

ネット柵の設置以降、冬季までの約半年の経過観察では、ネットの破損は確認されず、ネット柵内の植生被害も発生しなかった。自動撮影カメラでは、ニホンジカのほかツキノワグマ、タヌキ、イノシシが確認されているが、いずれもネット柵に関心を示す個体は確認されなかった。今後、ネットの破損やネット柵内外の植生被害のモニタリング調査を行うとともに、現地は冬期に1m程度の積雪が生じることから、ネット柵の耐雪性を確認し、管理方法についても検証していく。

2 植生調査

植生調査の結果を表-1に示す。

大平湿原では、確認種 83 種中 11 種の食害が確認された(表-1)。顕著な食害が見られた種はミズバショウのみで、今年度は5月下旬の開花前に食害が発生し、開花を確認できたのは1株のみであった。

野反湖では、56種の植物において食害が確認された。顕著な食害が見られた種は、夏期はサンカヨウ(図-2)、イタドリ、ニッコウキスゲ、シラネセンキュウ、ミヤマシシウド、秋期はウワバミソウ(図-3)、クロクモソウ、ヤグルマソウ、オオバコウモリ、シラネセンキュウなどが挙げられる。特にサンカヨウはスポット的に生育している集団がほぼすべて食害されて結実がほとんど見られず、シカの食害により今後減少・消失する可能性が危惧される。対策に向けた基礎資料とすることを見据え、引き続き植生被害を記録するとともに、調査範囲を拡げてモニタリング調査していきたい。



図-2 サンカヨウ食害 (R6.6.20)



図-3 ウワバミソウ食害 (R6.10.11)

表-1 大平湿原における植生調査結果

科名	確認種数	シカ食害	科名	確認種数	シカ食害
ヒカゲノカズラ科	1	0	ニシキギ科	1	0
ゼンマイ科	1	1	オトギリソウ科	2	0
コバノイシカグマ科	1	0	スマレ科	3	0
ヒメシダ科	4	0	ウルシ科	1	0
メシダ科	1	0	タデ科	1	0
シシガシラ科	1	0	モウセンゴケ科	1	0
マツ科	1	0	ナデシコ科	1	1
サトイモ科	1	1	アジサイ科	1	0
キンコウカ科	1	0	サクラソウ科	1	0
シュロソウ科	1	0	イワウメ科	1	0
ラン科	2	0	リョウブ科	1	0
クサスギカズラ科	1	0	ツツジ科	7	0
ホシクサ科	1	0	リンドウ科	2	1
イグサ科	3	1	モクセイ科	1	0
カヤツリグサ科	14	1	シソ科	2	0
イネ科	8	4	キク科	2	0
バラ科	6	0	ガマズミ科	1	0
ブナ科	1	0	ウコギ科	1	0
カバノキ科	3	0	セリ科	1	1
			計38科	83種	11種